

教育委員会だより -学(まなぶ)-

(10月1日号)

教育長コラム

教育長 宇野 成佳

—最後の頁を閉じた 違う私がいた—

表題の言葉は、2021「読書週間」の緑川良子さんの標語です。作者は、「没頭できる本に出会うと、読み終えてもすぐに現世に戻れません。しばらく宙に浮いたような感覚のあと我に返っても、読む前とは確実になにかが変わっています。そんな出会いをいつも楽しみにしています。」とのコメントが添えられています。

書物からの心動かされる言葉や登場人物の生き方など、私たちは、読書活動を通してことばを学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにします。そして、人生をより深く生きる、力を身に付けていきます。

読書週間は毎年10月27日から11月9日までの2週間。10月27日は「文字・活字文化の日」。加えて4月23日は「子ども読書の日」です。しかし、近年、情報通信技術（ICT）の発展に伴い、読書離れが進んでいます。

知立市では、今年4月「第3次知立市子ども読書活動推進計画 ～本はともだち～」を策定しました。推進計画は、次世代を担う心豊かな子どもたちを育成するために、すべての子どもがあらゆる場において自主的に読書活動を行うことができる環境を整備することが目的です。子どもが、読書に親しむことにより、読解力や想像力、思考力、表現力などを養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができます。また、書籍や新聞、図鑑などの資料を読み深めることを通じて、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、更なる探求心や真理を求める態度が培われます。社会が急激に変化し、複雑化していく中、読書活動を通じて、生涯にわたって絶えず自発的に学ぼうとする習慣を身に付けていくことは大切なことです。

子どもが本好きになる方法を紹介します。

- ・ 親が楽しそうに本を読む姿を見せる
- ・ 興味をもった本を読ませる。文章は読めなくても、写真や絵で楽しむ
- ・ 子どもが読んでいる本を保育士や先生に尋ね、同じジャンルの本を読ませる
- ・ 図書館の司書に本を紹介してもらう
- ・ 図書館の子ども向けの催しに参加する

コロナ禍において自宅で過ごす時間、一人で過ごす時間が増え、なかなか心落ち着かない時があるかと思います。そのような中、読書に夢中になることで心が穏やかになり、素敵な言葉に出会ったり、新しい世界への扉を開いたりすることもできます。ぜひ、知立市図書館に足を運んでみてください。